|  |
| --- |
| 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　総括表　　（平成31年4月） |

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 法人名 | 医療法人社団吉祥会 | 代表者 | 綿谷　宏 |  | 法人・事業所の特徴 | 笑顔とまごころをもって、細やかな心遣いの出来る介護を目指し、寄り添い、居場所作り、地域の関わり、生きている実感、その人らしさ、共に生きる事を大切にしながら取り組んでいます |
| 事業所名 | 小規模多機能型居介護事業所さわらびの郷 | 管理者 | 綿谷　宏 |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 出席者 | 市町村職員 | 知見を有するもの | 地域住民・地域団体 | 利用者 | 利用者家族 | 地域包括支援ｾﾝﾀｰ | 近隣事業所 | 事業所職員 | その他 | 合計 |
| 1人 | 人 | 3人 | 人 | 人 | 1人 | 人 | 10人 | 人 | 15人 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 項　　目 | 前回の改善計画 | 前回の改善計画に対する取組み・結果 | 意見 | 今回の改善計画 |
| Ａ．事業所自己評価の確認 | より一層、利用者様のお気持ちを大切にケアに取り組んでいく。 | 利用者様・そのご家族に働きかけ、利用者様とのコミュニケーションを大切にしてきた。 | 訴えの少ない利用者様に対しての対応が不十分だと考える。個別担当以外の利用者様に対しての取組ができていない。 | 利用者様の気持ちを大切に今一度原点に立ち返って取り組む。 |
| Ｂ．事業所のしつらえ・環境 | カフェスペースの有効な使用について工夫していき、一層、入りやすい事業所をめざしていきたい。 | ウッドデッキ部分に風が吹き込まないよう窓枠等を改良し、暖をとる事ができるようハード面での改良ができている。 | スペースの有効利用が出来ていないところがある。 | 前回、不十分であったカフェスペースの有効利用を実現したいと思っている。 |
| Ｃ．事業所と地域のかかわり | いきいきサロン等を通して地域の皆様との関わりを一層、広げていきたい。 | 社会福祉協議会様の力をかりていきいきサロンに参加させていただき、地域の方にかなり認知していただけていると思います。 | 地域のイベントに参加していると思うがお客さんという感じがする。 | 困りごとの相談がしやすくなるようカフェを活用して地域の方と馴染みの関係を構築する。 |
| Ｄ．地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み | 利用者様の参加について偏った方ではなく、出来るだけたくさんの方に参加して頂けるようにしていきたい。 | 偏った利用者様にいきいきサロンに参加して頂いている事も事実ではあるが前年より参加して頂ける利用者様は増えている。 | 地域資源の発掘が不十分と感じる。 | 自事業所だけの力を頼らず地域の方のお力を借りて利用者様がより良い暮らしが出来るよう計らう。 |
| Ｅ．運営推進会議を活かした取組み | 現実的な事を踏まえてまずは足を運んで頂きやすいカフェ等の充実を図って行きたい。 | ハード面での改良は出来たのではないかと思っているが実際に足を運んでいただくには至っていないと思える。 | 運営推進会議というものを広く内外に知ってもらい、各事業所のサービスの違いを理解してもらうべき。 | 運営推進会議に今まで以上に他事業所に参加して頂き、違った視点からの意見をすいあげさせていただく。 |
| Ｆ．事業所の防災・災害対策 | 立地的な観点からも避難拠点となる事は当然だと思う。災害発生時にあわてないよう多様な想定、訓練を実施していきたい。 | 多様性のある訓練は実施出来ていなかったが実際に大雨が予想される事があり、利用者様及びそのご家族に避難利用して頂く事が出来た。 | 地域の方から有事の際には頼りになりそうとの言葉を頂いている。 | 洪水だけにとどまらず、地震等のあらゆる災害を想定した訓練及び計画を作成し、備える。 |